

病害虫発生予察指導情報

(ナシ・ニセナシサビダニ No.5)

令和8年7月1日
鳥取県病害虫防除所

1. 情報の内容

6月下旬現在、ニセナシサビダニの発生量は平年に比べて多い。

2. 情報の根拠

- (1) 6月下旬現在、県予察ほ場（園芸試験場、殺ダニ剤無散布）におけるニセナシサビダニの葉当たり個体数は1577.4頭（平年：862.7頭）で、平年に比べてやや多い（表1）。
- (2) 向こう1か月の気象予報から、今後もニセナシサビダニの発生に好適な条件になると予想される。

表1 ニセナシサビダニの発生活消長（園芸試験場、殺ダニ剤無散布ほ場）*

月・旬	本年**	平年***
5・上	2.8	26.6
5・中	164.6	54.9
5・下	677.0	302.8
6・上	1840.0	597.5
6・中	1363.6	858.2
6・下	1577.4	862.7

*：殺ダニ剤無散布ほ場、1葉あたり寄生個体数（3樹10葉調査）

**：R3年度より調査樹を変更

***：平年値は過去8年（H30年～R7年）の調査結果から算出

3. 防除上注意すべき事項

- (1) 密度増殖が著しい種（ハダニ類、サビダニ類など）は、発生初期の防除（初期密度の低い時点での防除）が重要である。また、ニセナシサビダニ被害の多少は新梢停止期の早晩の影響が大きい。
- (2) 新梢の停止期が遅く、ニセナシサビダニの被害が増加するような場合は追加防除を行う。

〈参考〉

・発生量の記載

発生量の多少は中央値（median）の考え方を基に決定しており、発生の実態に即している。そのため、本年値と平年値の関係が発生量の記載と一致しない場合がある。